



理・山形教授ら

海水温の変動予測を実現

山形俊男教授(理学系研

究科)らは、5月に発生し

現在最盛期を迎えている、

インド洋における気候変動

現象「ダイポールモード現

象」の予測に世界で初めて

成功した。今回の成功と今

後の長期予測の精度向上に

よ、この現象の影響を受

けるインド洋周辺地域で

は、干ばつや洪水などの自

然災害による被害の軽減が

期待される。

ダイポールモード現象と

は、5月から12月にか

けて、インド洋東部(ジャワ

島沖)で海水温が下がる一

方、インド洋中央部から西

部にかけては海水温が上昇

し、南東からの貿易風が強

くなる現象。太平洋にお

けるエルニーニョ現象に類

しており、ケニアでの洪水

や、日本での猛暑など、世

界各地に大規模な気候変動

をもたらすとされている。

山形教授らが99年に発見

し、00年には大循環モデル

を使ったコンピュータに

よる再現実験に成功。19

61年以降、10回発生した

ことなども分かっていた。

今回、山形教授らは、人

工衛星によるインド洋の海

水温の観測値を基に、ス

パーコンピュータ「地球

シミュレータ」を用い海水

温や大気の変動を計算。昨

年11月には今夏にダイポ

ルモード現象が発生すると

予測した。実際に今年の5

月頃から同現象が現れ、予

測は的中した。

今後は、インド洋の観測

設備を整備し、予測の中

の精度を実際の気候予測に

役立つとされる。6割以上

の向上を目指すことを目指す。

東京大学新聞

2006年11月14日(火)掲載

